

事象の掘り下げを通じた

原因究明と真の対策が必要だ!



2024年6月21日、八戸線425D列車が宿戸～陸中八木駅間走行中、業務用携帯電話の着信を認め停車しました。運転士は停車後、業務用携帯電話を確認したところ当直からであり、折り返し連絡したところ「久慈駅に到着後、連絡をください。当直からの連絡で止まったので、指令から運転再開指示をもらってください。」との連絡を受けています。

八戸線では、2024年3月25日、442D列車が当直からの着信によって停車するという、同じ事象が発生しています。

2024年3月25日に発生した事象を受けて盛岡地本は、

申9号「事象の本質を踏まえ原因究明し安全第一の職場を創り出す申し入れ」
を提出し団体交渉を行ってきました!

●組合

ルールやあるべき姿を分かっている、判断を求められた瞬間に気が動転してしまうことは誰でもある。乗務員側でも、その時に如何に正しく速やかな報告ができるか、さまざまな事象でも議論している。誤った判断はなぜ起こってしまったのかを掘り下げていく必要がある。

事象の原因究明の必要性を訴える!

●会社

掘り下げは難しい!
掘り下げやなぜそうなったのかというのは聞いていくのは難しい。気が動転してというのは人なのであると思うが、そういった中でも絶対に守るべきルールはあるというのを繰り返し教育して、本人の意識だけでなく管理者全員、乗務員も含めてそういった意識に立っていくということが重要だ。

ルールの徹底の対策では、

安全はつくり出せない!

原因究明を通じた安全議論をつくり出そう!